

印象記

グラビア研究会 第2回勉強会に参加して

富原 道晴*

Michiharu TOMIHARA*

平成24年6月7日に開催されたグラビア研究会の第2回勉強会は、筆者にとってグラビア研究会委員としての最後の仕事でした。グラビア研究会との出会いは、平成15年8月27日に開催された第4回研究例会に環境関連VOC対策の講師として招かれたときです。環境問題に対して数多くの講演を行いました、400名を超える、当時最大の規模で開催された講演会にグラビア研究会の実力に驚嘆した思いがあります。以降、真摯な対応で研究会を運営される河村主査のお伴をさせていただくこととなりました。

今回は、理想とされるグラビア印刷工場について、これまでの印刷周辺の活動に限界を感じ、産業界の総力を導入したい、環境という印刷のみでない課題を解決するために、まず、工場がどうあるべきかと考え、東日本大震災後の事業継承の対応もあり、理想とされる、震災に強いグラビア印刷工場とはどういうものか、減災対策等、工場建設のプロの立場からの講演をゼネコンさんをお願いすることとし、各位の賛同を得て、大成建設㈱さんを講師に招き、事業の継続の為のシステム、省エネルギー対策等をキーワードに、違う視点からの講演をお願いしました。



図 講演会場内に設置された受付風景
(対応する安田会計担当委員と野上委員)

『東日本大震災を教訓とした、災害に強い工場づく

り』をテーマとする講演を企画しました。日本に未曾有の甚大な被害をもたらした東日本大震災はグラビア業界にライフラインの確保という重要な命題を突きつけました。どのような災害があっても食品流通を絶えさせることはできません。いかに工場や物流の機能を維持しながら事業を継続するかを考察し、災害に強い工場づくりの進め方について、大成建設㈱さんから2名の講師を招きました。今回の勉強会では、26名の一般参加者があり、第1回勉強会に引き続き勉強会らしい集客規模となりました。

最初の講演は「東日本大震災から学ぶ事業継承のための戦略作りと減災対策」として、大成建設㈱関山雄介氏の講演でした。

講演は1981年の建築基準法の改定前後の建築構造体の破壊の違い、建築とインフラとの接続問題、東日本大震災の被災事例から見たリスク、余震、津波、地滑り、液状化から連鎖した被害事例、自社以外の被災リスク、サプライヤー・取引先の被災の影響、次の災害にどう備えるか、BCMの進め方、減災対策の実際、被災のシナリオ、具体的な減災対策について、グラビア印刷工場の器としての建築構造がどうあるべきか等、普段、工場の中をどうするかしか見ていない筆者には新鮮な驚きでした。



図 会場風景

二つの講演の間の休憩時間には、従来のグラビア研

究会の活動を紹介する展示以外に、大成建設(株)さんから講演にまつわるパネル展示がなされ、聴講者の目をひきました。



図 展示風景

休憩後の二つ目の講演では、「印刷工場の省エネ対策と対応事例の紹介」の題で同じく大成建設(株)岸野豊氏から実際建設された、最新鋭のグラビア工場のDVDを使用した事例紹介を含めた講演をいただきました。AIB 食品安全統合基準に対応したグラビア印刷工場の副題で具体的な印刷工場の事例となりました。

危険物取扱所の全外気換気、印刷機の乾燥排気の膨大な風量、その中の難しい空調という特徴を踏まえて、どこに電力が使われているかの分析、対策としての印刷室の最小容積化による空調風量の削減、ダクトの最短化、工場内物流の最適化、空調と照明の監視、ピーク電力の削減対策、排熱回収といった身近な対策まで、整理していただきました。

これらを踏まえた最新鋭の工場事例として、三重県伊賀市にある、AIB 監査対象の次世代工場である(株)カナオカ様の関西工場のDVDを(株)カナオカ様の御理解の下に放映していただきました。

一貫生産工場として安定品質、短納期を実現している関西工場はコンパクト、エコを踏まえた環境配慮型工場です。生産、資材の衛生管理、来客をゲストとして迎えるエントランス、見学通路の分離、自動倉庫と印刷工場を隣接することで最小の動線による工場のコンパクト化、省スペース、省エネ対策。印刷室の天井を通常の6mから4.5mと低くすることで、25%の容積の低減、それによる空調外気等の削減、全熱交換空調省エネシステム、10kw 太陽光発電による自然エネルギーの採用、資源とエネルギーの効率化を実現した環境にも経済にもやさしい最新鋭の工場の姿が紹介されました。

(株)カナオカ様はこれまでも最新鋭の工場をこのような形で紹介してこられました。生産技術情報の共有化、公開をされていることに改めて敬意を表したいと思います。

これまで、理想的な工場のあるべき姿を考え、全国数百の生産現場を見てきた筆者にとっても次代の新しい流れと大成建設(株)さんの対応に大いに刺激されました。食品工業展の最中という、お忙しい中、御講演いただいた大成建設(株)さんに改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

最前列で熱心に取材していた印刷学会出版部の中村社長(写真右端)及びコンバーテック編集部の戸田氏(写真左端)は、講演会終了後にも岸野講師(左から3人目)をはじめとした関係者の方々と意見交換している様子が見られ、グラビア研究会のような小さな領域の活動において、ゼネコンの方々を講師として迎え、建物を含めたシステムについて初めて言及することができたのが話題としては新鮮に捉えられていた表れであると思われました。



図 講演会後まで続いた取材風景

講師との交渉に当たった筆者としては、これからは誰もが関心を持ち準備していかなければならない減災対策等への一助となる情報発信の場をグラビア研究会として提供できたものと自負しています。

パネル等の沢山の展示物を準備していただいた大成建設(株)の関係者の方々にも、厚く御礼申し上げます。

サカタインクス(株)

包装事業部

グラビア事業部

〒112-0004

東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル

写真：受付風景、会場風景、展示風景、取材風景